

歴博をあるく

展示資料に「年号」を探す

広報部会

平成天皇の退位に伴い2019年5月1日に改元されます。どんな年号（元号）になるのか皆様も大いに関心をお持ちのことと思います。歴博では2017年9月～10月に特集展示「年号と朝廷」が総合展示第3展示室で開催され、その時に来館者に歴博の展示物を楽しんでいただくため、「展示資料に『年号』を探せ」のイベントを行いました。第2展示室→第3展示室→回廊展示とフロアマップを手にして順番に探していきます。ここではフロアマップに代えて資料名称と展示場所を表示しました。一部の展示資料は写真を掲げました。それぞれの展示室および回廊を巡って、資料を発見し年号を確認してみてください。

No.	資料名称	年号	展示場所
1	金銅藤原道長経筒（原品：奈良県金峯神社蔵）	寛弘4（1007）年	第2展示室
2	板碑2点（原品：埼玉県智観寺蔵）	仁治2（1241）年 仁治3（1242）年	第2展示室 第2展示室
3	疱瘡寺蔵・徳政碑文（原品：奈良市柳生町所在）	正長元（1428）年	第2展示室
4	織田信長楽市令制札（原品：岐阜市円徳寺蔵）	永禄10（1567）年	第2展示室
5	角柱の道標（原品：京都市所在）	延宝6（1678）年	第3展示室
6	庚申塔の道標（原品：千葉県八千代市所在）	寛延2（1749）年	第3展示室
7	おかげ参り図絵馬（原品：兵庫県稲岡神社蔵・奈良県龍王宮蔵）	文政13（1830）年	第3展示室
8	宇治橋碑（原品：京都府宇治市所在）	大化2（646）年以降	回廊展示
9	阿波国造碑（原品：徳島県名西郡所在）	養老7（723）年	回廊展示
10	浄水寺寺領碑（原品：熊本県宇城市所在）	天長3（826）年	回廊展示



No.1



No.3



No.5



No.7



No.8

日本の年号は645年の「大化」が最初。古くは辛酉・甲子の年のほか、即位・祥瑞・災異その他の理由によってしばしば改められたが、明治以降は一世一元となり1979年公布の元号法も皇位継承があった場合に限り改めると規定された。「日本年号史大辞典」（雄山閣 平成29年）によれば、年号文字案は史書類（史記・漢書など）から選ばれ、「大化」から第125代「平成」までの間の247の年号で72文字が使われ、多い順に“永、天、元、治、応、長、文、和、正”の9文字で40％を占めています。さて新年号には何という字が選ばれるでしょう。